大手前大学論集　第10号（2009）pp.69－109

尾道市における空き家再生活動への参加報告

川窪広明、松富謙一、井之上節朗

要　旨

本報告は、2009年度特別研究、「尾道空き屋再生プロジェクト参加による学生の社会体験教育と建築の学習に対するモティベーション向上」に関するものである。この特別研究は、尾道市の斜面地に数多く存在する空き屋再生活動に取り組んでいるNPO法人・尾道空き屋再生プロジェクトとの協働により、実際の住宅再生作業を通して学生に社会体験をさせることを主な目的としている。

また９月に開催された「尾道建築塾夏合宿」には、本学の学生以外にも全国各地から学生や社会人が参加し、尾道市東土堂町の傾斜地に建つ築52年の木造住宅の改装工事や五右衛門風呂製作を行った。本報告では、この夏合宿を中心に学生が作業内容や取得した技能などを日報形式で詳細に報告する。

キーワード：尾道　NPO　空き家再生　持続性可能な社会　社会体験教育　夏合宿

１．はじめに

筆者らは、2009年度６月より大手前大学の特別研究費補助を受け、「尾道空き屋再生プロジェクト参加による学生の社会体験教育と建築の学習に対するモティベーション向上」として、NPO法人・尾道空き屋再生プロジェクトとの協働による尾道市の空き屋再生活動に取り組んでいる。

平成20年の中央教育審議会答申では、「第２節　教育課程編成・実施の方針について」において「目的意識の希薄化、学習意欲の低下等、学生の多様化により、大学側の対応の困難性は増している。学生に目的意識を持たせ、学習意欲を喚起する観点から、地域や産業界との連携を深め、外部人材の積極的な参画を得たり、質の高い体験活動の機会を積極的に設けたりするなど、開かれた教育活動を推進することも有意義である。」と

し、大学に期待する取り組みついて、

・　キャリア教育を、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指すものとして、教育課程の中に適切に位置付ける。豊かな人間形成と人生設計に資するものであり、単に卒業時点の就職を目指すものではないことに留意する。アウトソーシングに偏ることなく、教員が参画して学生のキャリア形成支援に当たる。

・　地方公共団体をはじめとする地域の諸団体との連携・協力を推進し、地域の教育資源や教育力を活用する。

といったことを提案している。

また経済産業省では、平成18年の「社会人基礎力に関する研究会中間取りまとめ」の中で、「社会人基礎力を構成する主要な能力」を①前に踏み出す力（アクション）、②考え抜く力（シンキング）、③チームで働く力（チームワーク）と定義している。

一方、現在、「持続性可能な社会」、あるいは「サステナビリティ」という言葉が時代のキーワードとなっている。この言葉と建築とは、まちづくりや建築物再生という点において深い関わりがある。しかし、建築教育の立場からは、まちづくりや建物再生には、地域や建築物ごとに特色あるデザイン手法や社会情勢の変化に対する柔軟な対応などが求められるため、建築計画や都市計画などの講義のみによる教育は難しい。

このような社会の要求や教育上の問題に対応するため、本学では社会文化学部人間環境学科環境デザインコースの時代から、建築を目指す学生に対し「現場に出かけ、その地域の人と交流し協働する」という社会体験教育を行ってきた。その事例として、まず「からほりまちアート」への参加をあげることができる。からほりまちアートは、大阪市中央区空堀地区においてまち歩きを楽しみながら、この地区の魅力をより多くの人に知ってもらうために町屋や路地にアート作品を展示するイベントであり、2001年から毎年10月末に開催されている。本学の学生は、2002年よりこのイベントに参加しているが、卒業後も運営スタッフとして活動を続け、現在では実行委員会副委員長を勤めるOBが現れた。そのOBの勧誘もあり、2005年からは毎年５名程の学生がイベント運営スタッフとして参加するようになった。また2004年、2006年、2008年には、離島の社会体験と住民の生活状況の調査を目的として、学生を夏休みに沖縄県・西表島のカヌーショップに長期滞在させ、滞在先の仕事を経験させている。特に2008年、筆者は学生と共に、台風による住宅の雨漏りに悩む住民に対し、住民自身で行うことができる修繕工事の指導を行った。この学生は、滞在終了後に「家の修理を行う業者がいない離島では、自分自身の手で厳しい自然から家を守り続けなくてはならないことを知った。これは内地の生活では得られない経験である。」と語っていた。

本年行っている「尾道市における空き家再生活動への参加」は、上記の事例同様、まちなみ保存活動の現場を通じて学生たちに社会体験教育の場を提供するとともに、まち

づくりや空き屋再生の手法の研究機会とすることを目的としている。本報告では、2009年9月に行われた夏合宿を中心に年度前半の活動について報告する。

2．尾道における空き屋再生

2－1　尾道市について

尾道市は、広島県福山市の西に隣接する市である。平成12年の国勢調査では人口92,586、世帯数34,051であったが、平成17年の国勢調査では、同年3月に御調町と向島町を吸収合併したこともあり、人口114,486、世帯数43,229となった。さらに平成18年に因島市と瀬戸田町を吸収合併したため、平成21年10月には人口148,852、世帯数63,334と大きく増加した。[文1)] 尾道市の中心市街地は、JR尾道駅から福山方面に2kmほど東西に延びる商店街を中心とした平坦な地区であるが、この地区は尾道水道と斜面地との距離（南北の距離）が短く、特に尾道駅に近い土堂地区では、最も狭いところで海岸線から200mまで斜面地が迫っている。

尾道の歴史は、1169年、後白河院により港町として開かれたことに始まる。その後、中世から近世まで対明貿易船や内海航行船の寄港地として栄え、成功した豪商から神社仏閣の寄進が行われた。1889年（明治22年）には尾道町となり、1898年（明治31年）には、広島県では広島市に次ぎ市制が施行された。第二次世界大戦の戦禍を免れたこともあり、海運業が下火となった現在でも、林芙美子や志賀直哉のといった作家の活動拠点であったことから「文学のまち」、尾道出身の映画監督・大林宣彦のいわゆる「尾道三部作」とよばれる一連の映画などのロケ地となったことから「映画のまち」、また建造物の多くが国の重要文化財に指定されている浄土寺や西國寺などの仏閣が立ち並ぶことから「歴史のまち」として多くの観光客を集めている。

また近年は、尾道市や民間団体によるまちづくり活動も活発に行われている。[文2)] 尾道市では、世界遺産推進課の設置（2004年）、旧尾道銀行本店と旧尾道商業会議所の再生活用、民間の歴史的建造物に対する改修助成制度創設などを行った。また民間でも地元有志によって創設された「尾道学研究会」による地域資源の蓄積活動、さまざまなイベントやワークショップが開かれている。

2－2　斜面地の空き屋問題

尾道市には、千光寺、西國寺、浄土寺の三寺が丘上に建立されており、その丘は「尾道三山」と呼ばれている（図2－1）。尾道三山の斜面地には、麓から住宅地が形成されている。この住宅地は、明治以前に沿岸部に住む裕福な「浜旦那」たちが山手の景色の良いところに、茶室と簡単な居住空間を持った茶苑・茶寮といった別邸を建てたのが

図２－１　尾道市の斜面地住宅地域

始まりといわれている。[文3)] さらに尾道市の世帯数の伸びが人口の伸びを上回った1920（大正９）年頃は、戸建ての小住宅から長屋群まで、さまざまな規模の住宅が和洋の意匠で建てられた。[文4)] 現在でもJR尾道駅付近から千光寺山を見上げると、大都市近郊の斜面地に雛壇造成された新興住宅地とは異なり、多様な外観を呈する住宅が密集した魅力的な景観を望むことができる（写真２－１）。

写真２－１　尾道市斜面地住宅街の景観

しかしながら、近年は尾道三山の斜面地に空き屋が目立つようになった。三山全域には300～500件、千光寺の斜面地だけで約100件の空き屋があるといわれている。このような空き屋の増加は、斜面地一帯の道路の大部分が、自動車を乗り入れることができない急傾斜で細い路地や階段であることに起因している。すなわち観光客にとっては魅力的な路地や坂道が、住民にとっては住宅を改築、改装したくても機材の搬入が容易ではない、下水道整備がなされない（便所は未だに汲み取り式である）といった生活上の障害となっているのである。特に高齢者にとっては、急な坂道の上り下りが日常生活の大きな負担となるため、平坦部の集合住宅に移った人も多いという。放置された空き屋は、景観の悪化のみならず、防犯や防災上の問題ともなる。またその敷地には竹や樹木が手入れされないまま生い茂るため、空き屋の劣化を早めることになる。

2－3　NPO法人尾道空き屋再生プロジェクトについて

本学と協働しているNPO法人尾道空き屋再生プロジェクトについて簡単に紹介する。

NPOの設立は、空き屋増加によって尾道らしい風情が失われてゆく現状を憂いた豊田雅子氏が、尾道の古民家を１つでもいいから残そうと2007年５月に築70年の民家を購入し、再生したことが発端である。この豊田氏の活動に対してブログや新聞報道などを通じ全国から賛同者が現れたこともあり、活動を官民一体型のまちづくりへと発展させていくため、同年７月に「尾道空き屋再生プロジェクト」というグループが結成された。そして2008年１月の設立総会を経て、特定非営利活動法人化（NPO）の申請が行われた。活動内容は、尾道空き屋再生プロジェクト定款に下記のように記されている。

（特定非営利活動の種類）

第４条　この法人は、前条の目的を達成するため、次に掲げる種類の特定非営利活動を行う。

（１）まちづくりの推進を図る活動

（２）学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動

（３）経済活動の活性化を図る活動

（事業）

第５条　この法人は、第３条の目的を達成するため、次の事業を行う。

（１）特定非営利活動に係る事業

①　町並み保全のための空き家再生事業

②　定住促進とコミュニティの確立を図る事業

③　新たな文化とネットワーク構築事業

役員は、代表理事である豊田雅子氏の他、副代表理事２名、理事７名、監事１名の11名である。また会員の種類には、正会員（この法人の目的に賛同して入会し、活動を推進する個人および団体）、賛助会員（この法人の事業を賛助するために入会した個人および団体）、ボランティア会員（この法人の目的に賛同し、ボランティアとして各種活動に協力していただける個人）があるが、2009年９月現在で132名の会員を擁する。

表２－１①と②は、豊田氏より入手したNPOの2009年４月から９月までの６ヶ月間の活動記録を、各活動の性格から①空き屋再生活動、②コミュニティ活動、③野外活動、④会運営、⑤その他に分類したものである。これらの活動は、毎年９月に開かれる総会において次年度の大まかな予定が決定されるとのことであるが、表２－１からは実に多彩な活動が行われていることがわかる。2009年度上半期の活動日数は、延べ127日にも

表２－１①　NPO法人尾道空き屋再生プロジェクトの2009年４月～９月の活動

空き屋再生活動

月日、曜日		時間	タイトル	活動内容	場所
4月7日	火	9:30～	ネコノテパン工場（山手のキッチンハウス）再生作業	壁塗り	ネコノテパン工場
4月11日	土	9:30～12:00	ネコノテパン工場（山手のキッチンハウス）再生作業	パン工場で必要な設備の搬入作業	ネコノテパン工場
4月13日	月	10:00～12:00	森の家再生作業	「森の家」の庭の整備	森の家
4月28日	火	10:00～12:00	森の家再生作業	「森の家」の庭の整備	森の家
5月12日	火	10:00～12:00	森の家再生作業	「森の家」の庭の整備	森の家
5月25日	月	10:00～12:00	森の家再生作業	「森の家」の庭の整備	森の家
6月2日	火	10:00～16:00	空き家再生作業	東土堂7番街の空き家の再生作業	東土堂7番街
6月4日～6日		10:00～17:00	空き家再生作業	三軒家アパートメントのガーデニングや壁面解体などの作業	三軒家アパート
6月9日	火	10:00～12:00	森の家再生作業	「森の家」の庭の整備	森の家
6月13日～14日		10:00～16:00	尾道建築塾　第2期　再生現場編	左官剣山掻き落とし仕上げ体験 ～北村洋品店の吹き抜けに空を描く！～	北村洋品店
6月16日	火	10:00～12:00	森の家再生作業	「森の家」の庭の整備	森の家
6月23日～30日		10:00～17:00	空き家再生作業	三軒家アパートメントの共有部分を中心とした再生作業	三軒家アパート
7月1日	水	9:00～12:00	AIR応援！空き家再生作業	8月から始まるAIR Onomichiで図書バーとしてオープンする空き家のゴミ出し作業	通称「図書バー」
7月3日	金	8:00～12:00	AIR応援！空き家再生作業	蚤の市に向けて掃除と展示作業のお手伝い	通称「図書バー」
7月6日	月	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けて、現場の下見や準備	森の家
7月6日～10日		13:00～17:00	空き家再生作業	三軒家アパートメントの共有部分を中心とした再生作業	三軒家アパート
7月7日	火	8:00～12:00	AIR応援！空き家再生作業	今年もAIRの展示会場となるガウディハウスの片付けと会場づくり	ガウディハウス
7月12日	日	9:00～12:00	空き家再生作業	大林監督の資料館を目指す建物のリノベーション手伝い	聖華寮
7月22日	水	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けて、現場の下見や準備	森の家
7月25日～26日		10:00～16:00	AIR応援！空き家再生作業	今年のAIRの拠点となる光明寺会館のリノベーション作業仕上げ	光明寺会館
7月27日～31日		13:00～17:00	空き家再生作業	三軒家アパートメントの共有部分を中心とした再生作業	三軒家アパート
7月28日	火	8:00～12:00	AIR応援！空き家再生作業	最初のアーティスト坂口くんが来る前の最後の会場仕上げ作業	ガウディハウス
8月5日	水	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けて、現場の下見や準備	森の家
8月9日	日	9:00～	空き家再生作業	大林監督の資料館を目指す建物のリノベーション手伝い	聖華寮
8月10日	火	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けての現場準備	森の家
8月24日	月	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けての現場準備	森の家
9月2日	水	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けての現場準備	森の家
9月7日	月	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けての現場準備	森の家
9月10日	木	10:00～12:00	第5回「土嚢の会」withいっとくグループ	東土堂町の再生中物件の資材搬入及び、一斉ゴミ出し作業	東土堂町
9月13日～20日			「尾道空き家再生！夏合宿」	＊詳細は本報告3章で説明	森の家
9月26日～27日			三軒家アパートメントオープンハウス	アパートのオープニングイベントと、この日から入居する部屋の公開	三軒家アパート

野外活動

月日、曜日		時間	タイトル	活動内容	場所
4月5日	日	10:00～15:00	空き地再生大ピクニック大会＆遠目にお花見	手作り公園「アクアの森」計画空き地の再生作業	アクアの森
4月12日	日	10:00～14:00	空き地再生ピクニック＆つるハウスをめでるBBQお花見	3月に工事完了した「つるハウス」を見学して、近所の空き地の草取りを行う	アクアの森
4月21日	火	10:00～13:00	空き地再生ピクニック	昨年ひまわりを植えた空き地を手作り公園に向けての作業	ひまわり公園
5月9日	土	10:00～	空き地再生ピクニック	昨年ひまわりを植えた空き地を手作り公園に向けての作業	ひまわり公園
5月16日	木	10:00～12:30	尾道建築塾　たてもの探訪編①	洋風住宅とガウディハウス講師：渡邊義孝氏（建築家）	
5月20日	水	13:00～	空き地再生ピクニック	手作り公園「アクアの森」計画空き地の再生作業	アクアの森
5月23日	土	14:00～16:30	尾道建築塾　たてもの探訪編②	「長江，久保編」講師：真野洋介氏（東京工業大学准教授）	
5月30日	土	14:00～16:30	尾道建築塾　たてもの探訪編③	「路地裏建築」講師：片岡八重子氏（建築家）	
6月22日	月	10:00～7:00	空き地再生ピクニック	手作り公園「アクアの森」計画空き地の再生作業	アクアの森
7月20日	月	10:00～16:00	三軒家町フィールドワーク	三軒家アパートのオープンに間に合うよう、三軒家の町歩きをして地図を作る準備	
7月24日	金	10:00～16:00	空き地再生ピクニック	廃屋の片付けや草刈りなど	アクアの森
8月17日	木	10:00～16:00	空き地再生ピクニック	廃屋の片付けや草刈りなど	アクアの森

表２－１②　NPO法人尾道空き屋再生プロジェクトの2009年４月～９月の活動

空き屋再生活動

月日、曜日		時間	タイトル	活動内容	場所
4月7日	火	9:30～	ネコノテパン工場（山手のキッチンハウス）再生作業	壁塗り	ネコノテパン工場
4月11日	土	9:30～12:00	ネコノテパン工場（山手のキッチンハウス）再生作業	パン工場で必要な設備の搬入作業	ネコノテパン工場
4月13日	月	10:00～12:00	森の家再生作業	「森の家」の庭の整備	森の家
4月28日	火	10:00～12:00	森の家再生作業	「森の家」の庭の整備	森の家
5月12日	火	10:00～12:00	森の家再生作業	「森の家」の庭の整備	森の家
5月25日	月	10:00～12:00	森の家再生作業	「森の家」の庭の整備	森の家
6月2日	火	10:00～16:00	空き家再生作業	東土堂7番街の空き家の再生作業	東土堂7番街
6月4日～6日		10:00～17:00	空き家再生作業	三軒家アパートメントのガーデニングや壁面解体などの作業	三軒家アパート
6月9日	火	10:00～12:00	森の家再生作業	「森の家」の庭の整備	森の家
6月13日～14日		10:00～16:00	尾道建築塾　第2期　再生現場編	左官剣山掻き落とし仕上げ体験 ～北村洋品店の吹き抜けに空を描く！～	北村洋品店
6月16日	火	10:00～12:00	森の家再生作業	「森の家」の庭の整備	森の家
6月23日～30日		10:00～17:00	空き家再生作業	三軒家アパートメントの共有部分を中心とした再生作業	三軒家アパート
7月1日	水	9:00～12:00	AIR応援！空き家再生作業	8月から始まるAIR Onomichiで図書バーとしてオープンする空き家のゴミ出し作業	通称「図書バー」
7月3日	金	8:00～12:00	AIR応援！空き家再生作業	蚤の市に向けて掃除と展示作業のお手伝い	通称「図書バー」
7月6日	月	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けて、現場の下見や準備	森の家
7月6日～10日		13:00～17:00	空き家再生作業	三軒家アパートメントの共有部分を中心とした再生作業	三軒家アパート
7月7日	火	8:00～12:00	AIR応援！空き家再生作業	今年もAIRの展示会場となるガウディハウスの片付けと会場づくり	ガウディハウス
7月12日	日	9:00～12:00	空き家再生作業	大林監督の資料館を目指す建物のリノベーション手伝い	聖華寮
7月22日	水	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けて、現場の下見や準備	森の家
7月25日～26日		10:00～16:00	AIR応援！空き家再生作業	今年のAIRの拠点となる光明寺会館のリノベーション作業仕上げ	光明寺会館
7月27日～31日		13:00～17:00	空き家再生作業	三軒家アパートメントの共有部分を中心とした再生作業	三軒家アパート
7月28日	火	8:00～12:00	AIR応援！空き家再生作業	最初のアーティスト坂口くんが来る前の最後の会場仕上げ作業	ガウディハウス
8月5日	水	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けて、現場の下見や準備	森の家
8月9日	日	9:00～	空き家再生作業	大林監督の資料館を目指す建物のリノベーション手伝い	聖華寮
8月10日	火	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けての現場準備	森の家
8月24日	月	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けての現場準備	森の家
9月2日	水	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けての現場準備	森の家
9月7日	月	10:00～12:00	森の家再生作業	9月開催予定の夏合宿に向けての現場準備	森の家
9月10日	木	10:00～12:00	第5回「土嚢の会」withいっとくグループ	東土堂町の再生中物件の資材搬入及び、一斉ゴミ出し作業	東土堂町
9月13日～20日			「尾道空き家再生！夏合宿」	＊詳細は本報告3章で説明	森の家
9月26日～27日			三軒家アパートメントオープンハウス	アパートのオープニングイベントと、この日から入居する部屋の公開	三軒家アパート

野外活動

月日、曜日		時間	タイトル	活動内容	場所
4月5日	日	10:00～15:00	空き地再生大ピクニック大会＆遠目にお花見	手作り公園「アクアの森」計画空き地の再生作業	アクアの森
4月12日	日	10:00～14:00	空き地再生ピクニック＆つるハウスをめでるBBQお花見	3月に工事完了した「つるハウス」を見学して、近所の空き地の草取りを行う	アクアの森
4月21日	火	10:00～13:00	空き地再生ピクニック	昨年ひまわりを植えた空き地を手作り公園に向けての作業	ひまわり公園
5月9日	土	10:00～	空き地再生ピクニック	昨年ひまわりを植えた空き地を手作り公園に向けての作業	ひまわり公園
5月16日	木	10:00～12:30	尾道建築塾　たてもの探訪編①	洋風住宅とガウディハウス講師：渡邊義孝氏（建築家）	
5月20日	水	13:00～	空き地再生ピクニック	手作り公園「アクアの森」計画空き地の再生作業	アクアの森
5月23日	土	14:00～16:30	尾道建築塾　たてもの探訪編②	「長江，久保編」講師：真野洋介氏（東京工業大学准教授）	
5月30日	土	14:00～16:30	尾道建築塾　たてもの探訪編③	「路地裏建築」講師：片岡八重子氏（建築家）	
6月22日	月	10:00～7:00	空き地再生ピクニック	手作り公園「アクアの森」計画空き地の再生作業	アクアの森
7月20日	月	10:00～16:00	三軒家町フィールドワーク	三軒家アパートのオープンに間に合うよう、三軒家の町歩きをして地図を作る準備	
7月24日	金	10:00～16:00	空き地再生ピクニック	廃屋の片付けや草刈りなど	アクアの森
8月17日	木	10:00～16:00	空き地再生ピクニック	廃屋の片付けや草刈りなど	アクアの森

なる。

各活動は、実施20日前までに具体的な運営方法が決定され、会員にメールによって通知されるが、特筆すべきは活動のネーミングのユニークさで、会員の積極的な参加を呼び込む魅力的なものである。空き地整備は「空き地再生ピクニック」という遊び心溢れるものとなり、再生民家のネーミングも、「ガウディハウス」（豊田氏が最初に購入した民家で、狭小地に建つユニークな形状からアントニオ・ガウディの作品を連想し、命名したものであろう）、「森の家」（市街地や尾道水道を一望できる高台に建つ住宅で、敷地が樹木に囲まれていることから命名）、「つるハウス」（居住者の姓から命名）といった「空き屋」というネガティブなイメージを覆すものとなっている。

またコミュニティ活動には、地元の女性を対象としたものが多く、「生活を彩る活動」としてNPOの活動を地元に深く根付かせる戦略的な活動として評価できる。「空き屋再生プロジェクト」という組織の名前からは、リフォーム作業や、いわゆる「まちづくり」という住民運動的な活動が連想されるが、このNPOでは空き屋再生活動と変わらない頻度で、「ママ教室」や「井戸端サロン」といった料理や子育てなど、日常生活に密着した内容の活動が行われている。このような地元の若い世代の女性が気軽に参加できる企画は、NPOが地域に深く根を下ろし、その人的ネットワークを広げることに役立っていると考えられる。

一方、空き屋再生活動において最も多く行われた「森の家再生作業」は、９月に実施される「尾道空き家再生！夏合宿」の準備作業である。この「尾道空き家再生！夏合宿」については、次章で詳しく報告する。また「AIR応援！空き家再生作業」は、AIR[注1)]と呼ばれるアートイベントの会場とする建物の再生作業である。アートイベントとまちづくり活動のカップリングは、まちづくりの手法として全国各地に見られ、前述した大阪市中央区のからほりまちアートもその一例である。尾道市では、2007年に初めて「アーティスト・イン・レジデンス尾道2007」が開催されたが、これは尾道空き屋再生プロジェクトの活動開始と同時期でもあった。このとき豊田氏は、知人を介してAIR尾道実行委員会の代表を務める尾道大学芸術文化学部の小野環講師と知り合い、協力関係を結んだとのことである。したがって「AIR応援！空き家再生作業」は、本年は８月１日から10月24日まで開催された２回目の「アーティスト・イン・レジデンス尾道2009」に対する協力の一環として行われた活動である。[注2)]

注１）AIRとは、Artist in Residenceの略称であり、国内外より招待したアーティストが尾道市斜面地区に滞在しながら創作活動を行い、その作品を展示するというイベントである。2007年より２年毎に開催される予定で、本年が２回目となった。

注２）小野氏は、尾道空き屋再生プロジェクトの副代表理事も務めているが、AIR尾道実行委員会と尾道空き屋再生プロジェクトとは現在も別団体である。

3．5月から7月の活動

3－1　5月の活動（NPOとの提携）

大手前大学とNPO法人・尾道空き屋再生プロジェクトとの関係は、本学非常勤講師の松富が、建築家でこのNPOの理事でもある片岡八重子氏と知り合ったことに始まる。2009年5月30日には川窪と松富が尾道を訪れて研究計画をNPO側に説明し、特別研究への協力を要請した。そこで取り決められた内容は次の通りである。

- 2009年6月から2010年3月まで8月を除き毎月1回、教員と学生が尾道に出向き、NPOの活動に参加する。
- この活動を学生たちに社会体験教育の場とするとともに、教員はまちづくりや空き屋再生手法研究の機会とする。
- 9月に予定されている合宿に本学教員はスタッフとして参加し、作業の指導とともに夜のレクチャーの講師を務める。
- 2010年3月に尾道市・尾道商業会議所記念館で開催される「まちづくり活動成果発表会」において活動報告を行う。
- 本学が尾道市の空き屋再生活動に協力していることを、この地域の高校に対する大手前大学の広報活動に利用させてもらう。

この研究に参加する学生としてメディア・芸術学部の建築・インテリア系で学ぶ学生の中から、成績、学習態度、目的意識などを考慮した上で、近藤将輝、高橋準也、長田和也の3名を選抜した。また尾道における活動は毎月土日を利用して行うため、金曜日授業終了後、神戸三宮発の高速バスで福山まで行き、福山からJRで尾道に向かう（尾道到着は午後9時30分頃）。尾道での宿泊は、教員、学生ともに寝袋を持参し、NPOが改装した民家（ガウディハウス、森の家）を利用する。帰りは日曜日の活動終了後、夕方尾道を出発する（神戸帰着は午後10時頃）。

3－2　6月の活動

6月は、13日（土）と14日（日）にNPOが空き屋再生イベントとして企画した「尾道建築塾　第2期　再生現場編」に参加し、尾道市三軒家町にある旧北村洋品店（写真3－1）の改装工事を行った。旧北村洋品店は、昭和33年に建てられた木造2階建ての住居兼店舗である。閉店後、長い間、物置として家財道具や不用品が積み上げられていた。急勾配の三角屋根や木製建具、タイル貼りの台所がこの建物の特徴であるが、シロアリ被害により躯体もかなり痛んでおり、梁や柱を差し替える大工事が必要であった。

6月のイベントでは、左官工事によって1階と2階の壁の仕上げを行った。改装後は、「ママ教室」や「井戸端サロン」などのコミュニティ活動の場として使用するため、壁

は「白い雲が浮かぶ青空」というイメージをデザインしたものであった。

写真３－１　北村洋品店外観

６月13日（土）

朝10時、現場に集合。参加者は15名であった。この２日間は、左官職人の山本氏と島田氏が参加者の指導に当たることになった。初日は２階に雲を白漆喰で制作する予定である。現場にはすでに養生シートが貼られ、足場と左官定規が壁に組まれてあった。まず、会場１階の居間に参加者が集合し、自己紹介を行った。その後、２階の現場に上り、３班に分かれて作業を行った。作業の手順は次の通りであった。

１．水で漆喰を練る。漆喰は、白セメント５杯、石灰５杯、白石（３厘）10杯、白石（５厘）10杯、布海苔1/3杯の割合で材料配合し、水を加えてミキサーで練り上げた。

２．山本氏による実技指導を受ける（写真３－２）。段取りは次の通りである。

①　ブラシを用いて下地表面の水湿しを行う。

②　左官定規の間に漆喰を塗る（写真３－３）。このとき漆喰の厚さは左官定規の厚さに合わせて９mmとする。

③　雲の円形部分を作成するために、左官定規の両側に増し塗りする（写真３－４）。

④　漆喰がある程度乾燥したのち、木製の円形定規をあてがい、コテ先で削り取る（写真３－５）。

⑤　さらに乾燥したところで、左官剣山で表面の目荒らし仕上げを行う。

⑥　左官定規を取り外す。

３．３つの班の担当箇所を決め、作業を行う。このとき足場に上れる人数が限られていたため、２人ずつ順番に足場に上って左官作業を行う。

４．作業終了後、道具の片づけ、現場の清掃を全員で行う。

写真３－２　左官職人山本氏による指導

写真３－３　左官定規の間に漆喰を塗る

写真３－４　雲の部分を増し塗り

写真３－５　雲の仕上がり

６月14日（日）

朝10時、現場に集合。前日の雲の作成に続き、青空の部分の作成を行う。作業の手順は次の通りであった。

１．水で漆喰を練る。今回は青空を表現するため、前日の漆喰の調合に青の顔料を加える。

２．前日と同様の手順で、まず２階の壁から塗り始める（写真３－６）。

３．ある程度、漆喰が乾燥するのを見計らい、左官剣山で表面の目荒らし仕上げを行う（写真３－７）。

４．続いて１階の壁を同様な手順で仕上げる。

５．作業終了後、道具の片づけ、現場の清掃を全員で行う。

写真３－６　２階壁の漆喰塗り

写真３－７　青空部分の剣山仕上げ

3－3　7月の活動

7月は、25日（土）と26日（日）に「AIR応援！空き家再生作業」に参加し、AIR尾道実行委員会のメンバーとともに「アーティスト・イン・レジデンス尾道2009」の主会場となる光明寺会館の壁の塗装を行った。光明寺会館は、鉄筋コンクリート（ラーメン構造）2階建ての建物（写真3－8）で、光明寺という寺院の付属施設である。AIR終了後は、公民館やダンス教室などの地域密着型の施設として使用予定である。

写真3－8　光明寺会館

7月25日（土）

朝10時、現場に集合。まず1階を塗装するため、養生紙と養生テープで養生した。次に下地のシーラー仕上げを行い、乾燥後、白のアクリルエマルジョンつや消しホワイト（日本ペイント　エコフラット70）を用いてローラーと刷毛で壁面を塗装した。

7月26日（日）

昨日同様、朝10時、現場に集合。午前中には1階の塗装をほぼ終えることができた（写真3－9）真細部を塗装するメンバー以外は、2階の壁と天井の養生およびシーラー仕上げを行った。

写真3－9　塗装が終了した光明寺会館内部

4．夏合宿（9月の活動）

9月は本研究のメインイベントとも言える尾道建築塾夏合宿に参加した。「尾道建築

塾」と銘打ったイベントについては、豊田氏はNPOを立ち上げる前からアイデアを持っており、昨年春よりまち歩きや住宅再生現場の作業を実施してきた。また夏休みを利用して主に建築を学ぶ大学生を尾道に集め、合宿形式で現場作業を体験するとともに、尾道の文化や空き屋の実態を知ってもらうことを目的とした「尾道空き屋再生！夏合宿」も当初からのアイデアであり、本年４月の総会でその実施が決定された。

合宿において中心となる作業は、「森の家」の改修工事である。森の家は、尾道市東土堂町の傾斜地に建つ築52年の木造住宅である（写真４－１）。敷地面積は、約400㎡で南側からは尾道市街や尾道水道、向島、さらにはしまなみ海道に連なる島影を望むことができる（写真４－２）。森の家の配置図を図４－１に示す。改修工事の内容は、本学が参加した時点で決定しており、①五右衛門風呂の製作（森の家には風呂がないため、

写真４－１　改装前の森の家外観

写真４－２　森の家からの眺望

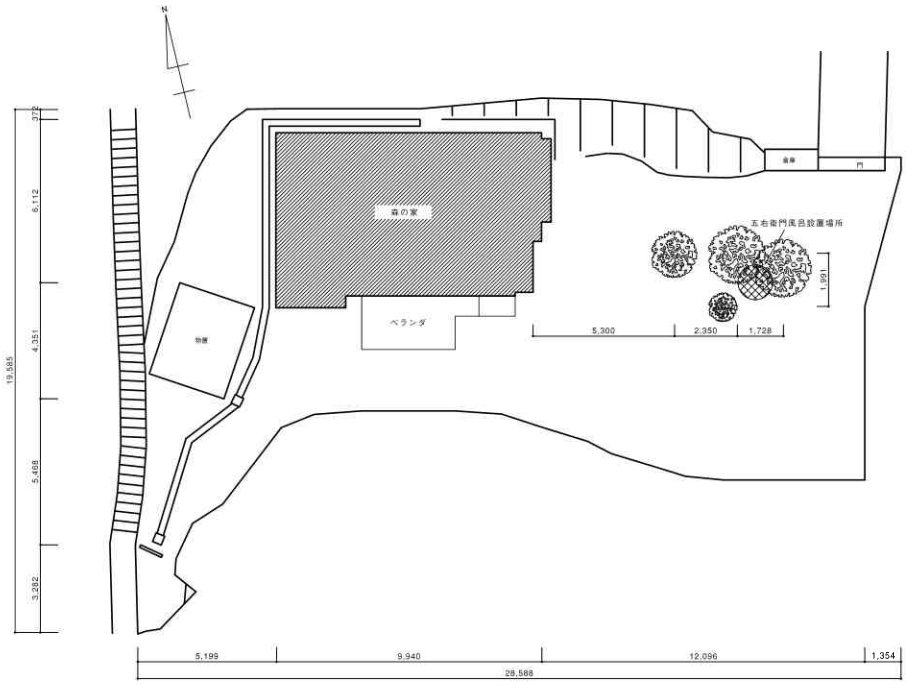

図４－１　森の家配置図

枯れ木や廃材を燃料として使用でき、景観を楽しみながら入浴できる五右衛門風呂を屋外に作る)、②リビングルーム改装（食堂とリビングルームの間にある垂れ壁を取り除いてワンルームとし、壁塗り替えと天井の張り替えを行う）③和室の壁の塗り替えであった。

また３－１で述べたようにこの夏合宿においては、本学の教員３名もスタッフとして参加することになったが、合宿終了後。豊田氏は「夏合宿の実現については、大手前大学の参加が大きな助けとなった。」と述べていた。

４－１　夏合宿の準備

夏合宿の具体的な準備や運営方法立案は、６月から開始された。６月と７月は、本学メンバーも打ち合わせに参加した。打ち合わせ以外にも予算、広報、準備など細部に渡ってメールによる報告と意見交換を行った。下記に打ち合わせ内容と主な連絡メールの内容を記す。なお、これらについては内容を損なわない範囲でオリジナルの文章に一部修正を加えてある。また内容をわかりやすくするための記述を（　）内に付け加えた。

【１】参加者負担費用の見積もり作成　2009年６月３日

夏合宿の参加費決定のための見積案をNPOの理事である渡邉氏が作成した。

〈尾道市の空き屋再生プロジェクト・サマースクール費用見積案〉

〈１〉人件費

現場監督謝礼（半日）　5,000
昼間セミナー講師謝礼　5,000
夜坐学講師謝礼　5,000
管理スタッフ謝礼　5,000

人件費小計　20,000×８日＝160,000円（A）

〈２〉食費＋雑費

朝食（パン＋ジュース、ヨーグルト等）　500/人
夕食（人件費込み）　800/人
雑費（洗剤、日用品等）　200/人

一人当たり　1,500×15人×８日＝180,000（B）

〈３〉宿泊費

一人一泊　1,000×15人×７日＝105,000（Ｃ）

〈４〉集団移動費等

(交通費、入場料、全体行動時の食費、資料代等)

一人当たり　5,000×15人＝75,000（Ｄ）

〈５〉広報宣伝費

デザイン費	10,000
印刷費	10,000
郵送料	10,000
人件費小計	30,000（Ｅ）

〈６〉工事費等

材料費	90,000
水道工事業者委託費	20,000
塗装工事業者委託費	20,000
左官工事業者委託費	20,000
工事費等小計	150,000（Ｆ）

合計（Ａ）＋（Ｂ）＋（Ｃ）＋（Ｄ）＋（Ｅ）＋（Ｆ）＝700,000

700,000÷15人＝46,666円　　予備費含めて48, 000～50,000円

【２】雑誌、新聞への広報案作成　2009年６月12日

建築関係の雑誌、新聞に掲載するため、下記の文案を渡邊氏が作成したが、「協力」という形で本学の大学名を掲載することになった。

〈尾道空き家再生サマースクール参加者募集〉

尾道に残る空き家を実際に再生しながら古い建物の活用や建築工事の現場を体験。併せて洋館群や国宝を巡るまちあるきや、専門家によるスライドレクチャーなど、８日間のワークショップ。寝袋持参。

日時：2009年９月13日（日）～20日（日）
作業内容：民家の修復、構造補強、風呂作りなど
見学地：尾道市景観地区ほか
対象：18歳以上　定員：15名
参加費：５万円（宿泊費、朝夕食費、材料費など）
申込締切：８月15日（土）
主催：NPO尾道空き家再生プロジェクト、協力：大手前大学

詳細はウェブサイトを参照。
http://www.onomichisaisei.com/

【３】夏合宿運営に関する話し合い　2009年６月13日

６月13日の作業終了後、北村洋品店においてNPOメンバーと本学教員が、渡邊氏が作成した参加者負担費用の見積案と雑誌広告案を検討し、合宿の準備方法と具体的な運営方法について話し合った。以下に渡邊氏による議事録を記す。

〈サマースクールの位置づけと日程〉
・　2009年９月13日（日）～20日（日）７泊８日
・　再生作業の項目を増やそう（五右衛門風呂だけでなく）
・　泥臭さを体験させよう。

〈監督体制と教員宿泊〉
・　（合宿期間中）男子学生は森の家に宿泊、女子は北村洋品店か。
・　教員はペンション「坂の風」に宿泊していただく
　→（元左官職人でペンション経営者でもある）島田氏を工事統括にできる
　→宿泊費は先生が負担可能、プロジェクタも大学から貸与可能
・　井之上先生の位置づけ
　→グループ単位の監督をお願いしたい
・　夜の坐学の候補
　→「東南アジアの住宅」「伝統的土壁の文化史」「大阪のまち再生の仕組み」「木造仕口継手の研究」
　　……各先生方のご異存なければチラシに入れたい
　　……担当の日程はカリキュラム編成時に再度確認

〈費用内訳〉

・　５万円は妥当だろう。学生にとって勇気が要る額だが……。
・　ただし、工事材料費等が15万では足りない。市外ツアーをやめるなど内部比率を変えてもう少し捻出したい。

〈備考〉

・　（森の家の）居間と和室は宿泊用。北西倉庫だけ解体し、構造補強と矩計実測を体験させよう。
・　木材仕口の講座をやっていただきたい。
・　カレン族の竹構造で脱衣場、土留めつくれるか。
・　大手前大から接触した高校生を特別に参加させる。
・　「協力、大手前大学」を入れてよい。
・　「日本建築学会」の後援をいただくか？　（東京工業大学の）真野先生にお願いできるか？
・　鞆の浦（見学小旅行）は正規カリキュラムからは外そう。

〈募集広告について〉

・　６月25日までに建築関係雑誌に投稿する。
・　６月中旬にチラシ内容を確定　→　小野先生にゲラ依頼します。
・　７月以降、建築系大学に郵送し掲示板掲示を依頼。（スタッフの）つてがある大学にはプッシュする。
・　７月にはウェブでも告示
・　（参加申し込みは）８月15日締め切りか？

【４】広報文案の検討、レクチャー内容の決定、配布用チラシとポスターの作成　2009年７月初旬～８月中旬

夜のレクチャー担当講師から講義概要を提出してもらい、広報用のチラシに掲載した。夜のレクチャーは、９月15日から18日の４日間、夜８時から９時30分まで光明寺会館にて行う。このレクチャーには、合宿参加者の他に一般の聴講希望者（有料：1000円、会員は500円）を募ることにした。また本学の要請により、高校生の聴講希望者は無料とした。

〈各講師の講義概要〉

第１回（７月15日）　タイ少数民族とブータンの住宅

川窪広明（大手前大学メディア・芸術学部　教授）

タイ北西部に暮らすカレン族と、ヒマラヤの小国・ブータンの住宅や人々の暮らしをスライドを中心に紹介します。カレン族やブータンの人々と私たち日本人との間にはよく似た文化や習慣が存在し、日本人のかつての暮らしぶりを垣間見ることができます。しかしその一方で急激な近代化の波が押し寄せており、著しい生活の変化も起こっています。エコとかサステナビリティという言葉が時代のキーワードとなっている今、カレン族やブータンの人々の暮らしからその意味を考えてみたいと思います。

第２回（７月16日）　漆喰壁が出来るまでの全工程
井之上節朗（大手前大学メディア・芸術学部　准教授）

姫路城などの城郭や京の町屋に見られる漆喰壁はどのように造られていくのかを動画、静止画をまじえてわかりやすくお話します。現況として、左官屋さんも漆喰壁を本格的に施工するチャンスがほとんどないようです。私は縁ありまして漆喰壁施工の全工程に立ち会い、それを小冊子、動画および静止画にまとめることが出来ました。鉄筋コンクリートと全く異質のように見えて実際は共通点が多いのも興味深いところです。特に土は世界中の何処にでもある建築材料です。今、尾道で厄介者になっている竹の有効利用のヒントを得ることが出来るかも知れません。続きは講義にて。

第３回（７月17日）　地域づくりを通じた空き家再生のコミュニティビジネス
～大阪・からほり地域の実践を題材として～
松富謙一（CASE代表、大手前大学メディア・芸術学部非常勤講師）

大阪・空堀地域において空き長屋・町屋という地域資源を活用して、町並み魅力の創出や長屋密集地が抱える課題改善に取り組む事例を紹介します。僕がなぜ、地域づくりに取り組み、起業したのか。会社設立にいたる苦行難業の道程を紹介し、長屋再生事業を行うコミュニティビジネスのリスクとリターンを尾道の活動と重ね合わせ皆さんと共に考える場所にします。

第４回（７月18日）　バルカン・コーカサスの建築を巡る
渡邉義孝（一級建築士、風組・渡邉設計室代表、NPO東京を描く市民の会理事）

「ナウシカ」のモデルとも言われるコーカサスの谷の石の塔、グルジア・アルメニア

のキリスト教建築。ユーゴスラビア崩壊後の混沌としたバルカン半島で、民族のアイデンティティを建築という器で支え続けるマケドニア、アルバニア、コソボの人びとの暮らし。日ごろ触れることの少ないユーラシア「辺境」の生活と空間の一端を紹介します。

・　広報用のチラシを作製した。チラシのデザインは、小野氏が担当した。
・　夏合宿に建築を学ぶ大学生を募集するため、下記の手紙とチラシ（図4-2、図4-3）を全国180校の大学に送った。

図４－２　夏合宿のチラシ（表）

図４－３　夏合宿のチラシ（裏）

拝啓

時下ますますご清栄のことと、お慶び申し上げます。

私たちは、広島県尾道市にて空き家の再生を基本に、アート・まちづくり活動に取り組んでいるNPO法人の「尾道空き家再生プロジェクト」と申します。

この度、空き家を改修しながら、まち歩きや建築セミナーを組み合わせた「尾道再生サマースクール」というイベントを実施することとなりました。主に建築関係の学生を対象とした七泊八日の合宿形式です。実際に工事を体験し、寺社や近代建築が豊富に残る尾道のまちなみをフィールドワークし、まちづくりとまち再生の現場を知る体験型学習の機会になるものと存じます。

つきましては、貴大学の掲示板などに同封の「サマースクールチラシ」をご掲出いただき、学生の皆さんへの周知をはかっていただければ幸いです。また、当NPO団体に

ついてのチラシ「空き家×？＝」も同封させていただきました。あわせてご一読いただければ幸いです。

よろしくお願いいたします。

敬具

【５】作業の準備と機材運び込み　８月18日～９月７日

参加申し込みの受付、実習の準備を行った。特に五右衛門風呂については、渡邊氏が作成したアイデアスケッチ（図４－４、図４－５、図４－６）をスタッフにメールで送り、意見交換を行った。渡邊氏と川窪、松富との間で意見交換されたメールの内容を下記に示す。

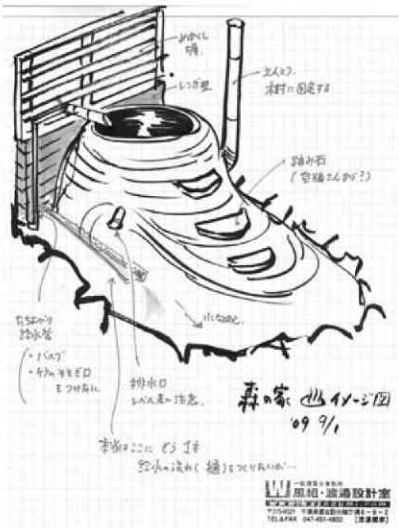

図４－４　五右衛門風呂のイメージ図

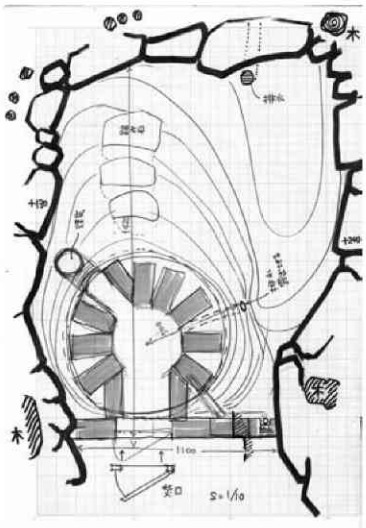

図４－５　耐火煉瓦配置検討図

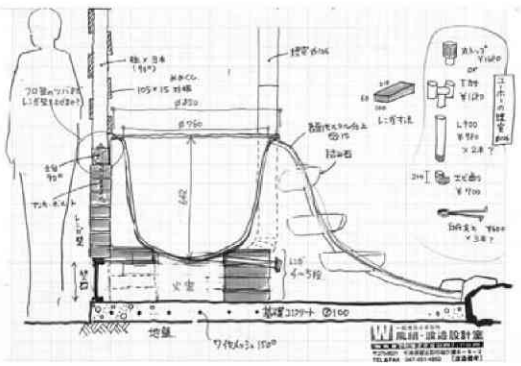

図４－６　断面イメージ図

〈川窪からの質疑〉

1）濡れた石を上り下りしたり、深さ65cmほどの湯船をまたぐので、煙突側に手すりをつけた方がいいと思いますがいかがでしょう。

2）風呂釜に出入りするとき、一旦尻を下ろせる部分（石を置いてもいい）を風呂釜の端部と同じ高さに作ったら入りやすいと思います。

3）風呂のモルタル部分に、割ったタイルなど埋め込んで模様を作って仕上げるのも面白いかと思います。割ったタイルの端部は、グラインダーで削る必要があると思いますが。

〈松富からの質疑〉

1）フロ釜は、既製品ですか。どのように固定するものでしょうか。ポンっと置く感じですか。

2）焚き口側のレンガ壁面に水平方向で力がかかることはないですか。

3）火室の大きさ、高さ方向などこれぐらいが適正ですか。空気の取り入れ口は設けるのでしょうか。

4）焚き口側の地盤とコンクリート底盤との関係は、スケッチぐらいですか。根入れはなしですね。

5）オーバーブロー時の火室への水の浸入は大丈夫ですか。煙突側からなど。

6）火量調整は、やはり、マキのくべ具合でするものなのでしょうか。

7）煙突は裸の人との激突事故に備えて、目隠し板裏側に廻すほうが良くないでしょうか。

8）平面図でみると、フロ釜からの排水ルートになっている、やや平場部分が、洗い場になるのかなと思いましたが、その部分には、シャワーなど給湯口は設置しませんか。

〈渡邊氏からの回答〉

1）風呂釜は既製品です。http://www5a.biglobe.ne.jp/~koga-j/goemon.htmの中にある、やまと風呂の丸形25のサイズです。

2）焚き口側のレンガ壁について

たしかに、水平力は不安です。その上に木製の目隠し壁が立つわけですから、横倒れに対処が必要でした。イラストではレンガ１列幅で自立しているように描かれていますが、風呂窯を覆う巨大な山と裾野の芯は、大量のレンガで組むことになりました（今日、豊田さんたちが現場で打ち合わせをしてくださいました）ので、それを一体化させることで対処しようと思います。つまり、マッシブなレンガの塊の、

北側側面に過ぎない、という作りにしてしまおうと思います。

3）火室の大きさ、高さ方向など

「空間が高い方が燃えやすい」が、「それだけ跨ぎが高くなる」というせめぎ合いです。耐火煉瓦が足りるならば、図よりも高く、６段位にしてもいいかもしれません。（厚60＋目地10で70、それが６段で42センチ高の空間。ただし窯の底が下がってくる）

4）焚き口側の地盤とコンクリート底盤との関係

スケッチの通り、100mmです。ただし、北側の地盤は掘ることは可能です。

5）オーバーブロー時の火室への水の浸入

・　北側のレンガ壁は窯の天端より高くしましょう。

・　煙突周囲はモルタルで目地埋めし、更に「堤防」でもつけて浸水を防ぎましょう。

6）火量調整

薪でするしかないと思います。ちゃんとした焚き口扉をつけるなら、吸気口の加減である程度の火力調整は可能でしょう。

7）煙突の位置

たしかにやけど対策としては北側目隠し板側もいいですが、上部の樹木の茂り具合も問題です。現場で決めてもいいと思います。

8）洗い場側の給水、シャワー等

本当は欲しいです。イラストにあるように掛樋で水だけでも引きたいです。本当はシャワー、それも温水シャワーがあれば最高です。でも、メカニズムとして可能でしょうか？

9）跨ぎのための手すり

あったらいいと思います。だし木製ではモルタル埋め込み部が腐りますね。D-19程度の異形鉄筋を曲げ、または溶接したものを埋め込む、なんてことができればスマートでいいと思うのですが、尾道では鉄関係のアーティストもおらず、悩んでいます。

10）バスタブ出入り時の腰下し石

登るための石段とともに、ひき臼石を嵌めてみようか、と豊田さんと話しています。

11）モルタル部分に、割ったタイルを埋め込む

まさにこの通りのことを豊田さんが考えています。すでに参加学生あてに「ビー玉やタイルなど、埋め込みたいものを持って来て」と呼びかけました。出来上がれば「一生もの」ですし、愛着も湧くと思います。

メールによる意見交換で五右衛門風呂のスペックを決定した後、渡邊氏とスタッフの一人である田中氏が中心となり、基礎部分のコンクリート打設（写真４－３）と給排水管埋設工事を行った（写真４－４）。また五右衛門風呂の風呂釜を購入し、現場に搬入した。この風呂釜は、マル廣長州風呂丸型25（口径：76cm、深さ：64cm、容量：215リットル：重量：50kg）である。

写真４－３　五右衛門風呂設置箇所の基礎コンクリート

写真４－４　地中に埋設された給水管

【６】準備最終段階　９月10日～12日

夏合宿の準備も最終段階に入り、９月10日には参加申し込みが定員目標の15名に達した。また、地元の人たちの協力を得て、９月10日にセメントや砂などの工事用材料や道具類、11日に合宿中の生活用品などを麓から森の家までリレー方式で搬入した。さらに参加者の保険加入手続きと現場周辺の家への挨拶回り、参加者の食事や活動記録などを担当するスタッフのミーティングを行った。下記は、９月10日にスタッフに配信された豊田氏からのメールである。

夏合宿関係者のみなさま

いつもお世話になっています！いよいよ、合宿の日が近づいてまいりました。

尾道の方では、先日最後の買い物を済ませ、明日残りの材料や生活用品をリレー方式で大勢で運ぶ予定です。あとは、足りないものを細々買い寄せていきます。

先日、夜のセミナーのメディア投げ込み完了、明日、現場周辺の家に挨拶回り、保険加入手続き、金曜日中には、当日配布資料一式をまとめる予定です。

あと、今朝申込があり、最終人数が15名（日帰り２日間のみの方含む）となりました。レクチャーの方はまだ予約が少なく、４回分合計でまだ６名です。参加費は直接資金に繋がりますので、ぜひお知り合いをお誘いください！日ごとの詳しいスケジュールと名簿を明日中には完成させたいと思います。

参加者の方の送った集合の案内を添付します。当日、スタッフは昼食をお済ませの上、12時に北村洋品店にご集合ください！13日に出席予定の方は、大手前の先生３名、渡邊さん、島田氏、田中君、藤井ちゃん、小原ちゃん、西川ちゃん以外にいらっしゃれば、お知らせください。スタッフに関しては、ウェルカムパーティの食事代を無料で提供します。

よろしくお願いします。

４－２　夏合宿の報告

夏合宿開始に当たり、2009年９月13日（日曜日）午前12時、参加者が北村洋品店に集合し、自己紹介とオリエンテーションを行った。参加者は15名の予定であったが１名がインフルエンザ罹患により欠席したため14名となった。内訳は、学生10名、社会人４名であった。社会人４名のうち２名は、仕事の都合によりそれぞれ２日間のみの参加、午前中の作業と夜のレクチャーのみの参加であった。

４－２－１　現場作業

９月14日より19日まで３つの現場作業が行われた。各現場には、本学の教員が責任者として１名ずつ配属された。下記に各現場の日報を紹介する。

〈１〉五右衛門風呂の製作　（担当教員：川窪）

９月14日（月）作業１日目　担当班：第１班

五右衛門風呂の製作は、夏合宿の現場作業における「メインイベント」である。まず、渡邊氏、左官職人の山本氏、川窪で、渡邊氏が描いたスケッチをもとに五右衛門風呂のデザインと工事の段取りについて打ち合わせを行った。その結果、入浴のためには90cm上ってから、深さ60cmの風呂釜に足を踏み入れること、また風呂から出るときも60cmの風呂釜をまたぎ超さなければならないことから、風呂釜に上る階段２段に加えの上端と高さを合わせた平坦部を設けることにした。この平坦部には、表面が滑らかなタイルを貼り、五右衛門風呂に出入りする際、一旦、この上に尻を置き、安全に体の向きを変えることができるようにした。

・　参加者全員で五右衛門風呂の完成イメージを検討しながら、設置場所の基礎コンクリートの上に耐火煉瓦を並べ、煉瓦の配置検討を行う（写真４－５）。
・　配置を決定後、基礎コンクリートの上に耐火モルタルを用いて耐火煉瓦を固定する。
・　耐火煉瓦を積むときは、耐火モルタルの厚さを約２cmとし、水準器を使用して隣接する煉瓦との水平を調節する。
・　煉瓦同士が接触する部分は、グラインダーを用いて整形する（写真４－６）。

・　この日は、火室の高さである４段まで積み上げた。

〈学んだ技能、工夫した点など〉

・　耐火モルタルの練り方は、通常のモルタル同様、耐火モルタルと砂の体積比を１：３とする。
・　コテとコテ板の使い方について、左官職人の山本氏の指導を受けた。
・　電動グラインダーの使い方について、山本氏より「グラインダーは通常、刃が手前に回転するよう使用するが、この方法だと粉塵が使用者の方に吹き付ける。グラインダーを裏返して刃が反対に回転するように使用すると、粉塵をかぶらずにすむ。」というアドバイスを受ける。ただし、この場合はグラインダーの安全カバーを外さねばならず、またグラインダーを手前に引いて材料を切断するとき、回転する刃と材料の摩擦力に逆らうような力を入れなければならないので、初心者には危険が伴う。
・　昼休み前と作業終了後は、班員全員で作業に使用したコテやブラシなどの用具を丁寧に洗い、保管場所に戻す。モルタルが付着した用具を洗うとき、排水溝にモルタルが流れ込まないよう土嚢袋を使ってモルタルを濾過した。この作業は、毎日繰り返された。

９月15日（火）　作業２日目　担当班：第３班＋第２班より応援２名

・　前日に積み上げた耐火煉瓦が固着していることを確認し、鋳鉄製の五右衛門風呂釜をその上に乗せる（写真４－７）。
・　北側の耐火煉瓦の間に鋳鉄製の焚き口をはめ込み、固定する。また焚き口周辺以外は、赤煉瓦を積む（写真４－８）。
・　洗い水の蛇口を取り付ける。水の出口は、敷地南にある竹林から孟宗竹を切り出し、筧風のデザインとする。
・　風呂釜上端から約30cm下まで耐火煉瓦10段を積み上げる。ただし、風呂に入るための階段を作る南側の耐火煉瓦は９段とする（写真４－９）。

〈学んだ技能、工夫した点など〉

・　以前、五右衛門風呂を制作した経験がある山本氏より、五右衛門風呂の水の加熱方法として、釜底を火室で燃える火ばかりではなく、火と高温の煙を釜の側部を周回させて煙突まで導く方が効率がよいとのアドバイスを受けた。そこで耐火煉瓦を積むとき、風呂釜側壁から約10cm離して積み、その空間を煙道とした。
・　焚き口上部の耐火煉瓦を積む際、図４－７のような状態となるために煉瓦を支持する方法を考える必要があった。そこで焚き口のサイズに合わせた木製の台を作り、焚き口内部に設置し、その上に煉瓦を積んだ。この台は、火を焚いたとき、燃え落

写真４－５　基礎コンクリートの上で耐火煉瓦の配置を検討

写真４－６　グラインダーによる耐火煉瓦整形

写真４－７　耐火煉瓦上に置かれた風呂釜

写真４－８　設置された焚き口

写真４－９　積み上げられた耐火煉瓦

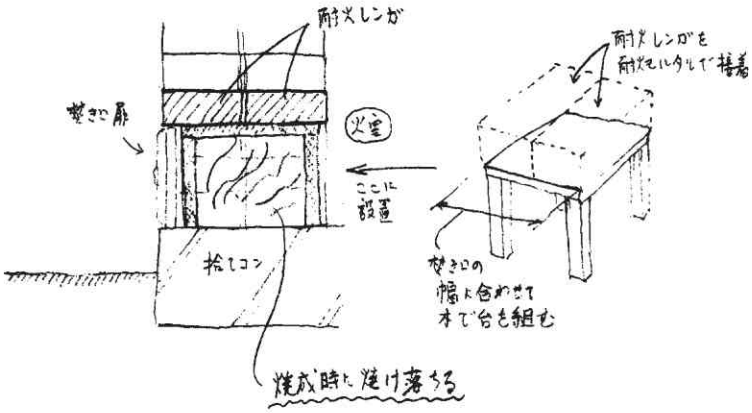

図４－７　焚き口の耐火煉瓦支持台（現場におけるアイデアスケッチ）

ちる予定である。

９月16日（水）　作業３日目（作業は午前中のみ）　担当班：第２班

・　北側の焚き口の上に赤煉瓦を積む。

・　風呂釜周囲に積み上げた耐火煉瓦の隙間に、コンクリートブロックや煉瓦、以前この家の屋根瓦として使用されていたコンクリート瓦などのガラを詰め込み、モルタルで固める。

〈学んだ技能、工夫した点など〉

・　構造的に問題とならない煉瓦の隙間を塞ぐために、ガラを詰め込むことによって使用するモルタル量を節約できる。
・　当初、風呂に上がる階段と腰掛けの作成に庭にある石を使用する予定であったが、風呂の側面への固定が難しいことから、コンクリートで作成することにした。

9月17日（木）　作業4日目　担当班：第1班

・　風呂釜に4分の1程度水を入れ、火室内で半日火を焚いて耐火モルタルを焼成する。燃料としては、古材や枯れ枝を使用した（写真4－10）。
・　前日に続き、北側の焚き口の上に赤煉瓦を積む。この壁の最上部にはアンカーボルトを埋め込む。アンカーボルトは、目隠し壁の土台を固定するために使用する。
・　午後から耐火煉瓦を風呂釜上部まで積み上げ、煙突を差し込む部分を残して煙道を塞ぐ。
・　煙突の水平パイプを煙道に差し込み、モルタルで固定する。
・　コンクリートブロックを五右衛門風呂の登り口に積み上げ、階段の下地とした。コンクリートブロックの穴や隙間には、コンクリートブロックや煉瓦、以前この家の屋根瓦として使用されていたコンクリート瓦などのガラを詰め込み、モルタルで固める（写真4－11）。

〈学んだ技能、工夫した点など〉

・　風呂釜に入れた水は4分の1程度であったが、火を焚き始めて5分ほどで熱湯となった。
・　焚き口で耐火煉瓦を支えるために使用した木製の台は、火が燃え終わるとともに焼け落ちた。しかし、同時にこの直上に積んだ耐火煉瓦2個も落下してしまった。木の台自体がこの上に積まれた耐火モルタルに炎が当たる妨げとなってしまい、十分な焼成ができなかったことが原因であろう。この耐火煉瓦の落下は、五右衛門風呂の構造には影響が無かった。

9月18日（金）　作業5日目　（作業は午前中のみ）　担当班：第3班

・　五右衛門風呂の表面を黒モルタル（モルタルに墨汁を混ぜたもの）で仕上げる。また参加者が持ち寄った小物を「記念の品」として表面に埋め込む（写真4－12）。
・　階段と腰掛けに、表面が滑らかなタイルを貼る。
・　焚き口上の煉瓦上部に土台を据え付け、アンカーボルトで固定する。さらにその上に竹を二つ割りにした竹で目隠しを作る。

〈学んだ技能、工夫した点など〉

・　モルタル仕上げは、仕上げ面にまず金属メッシュを置き、その上にモルタルをコテで塗りつけて行った。
・　この五右衛門風呂表面は、不規則な曲面で構成されているため、金属メッシュは30cm角に切断してパッチワークのように使用した。
・　最終的な仕上げは、コテでモルタルを押さえた後、軍手をはめた手で表面をなでるようにして滑らかな曲面にした。この手法は「軍手仕上げ」と呼ばれるが、表面が滑らかに仕上げる反面、モルタルの強いアルカリによって手が荒れる結果となった。

９月19日（土）　作業６日目　（作業は午前中のみ）　担当班：第２班＋第１班と第３班より２名ずつ応援

・　前日に続き、五右衛門風呂の表面を黒モルタルで仕上げる。
・　煙突の水平パイプにエルボーを繋ぎ、さらに垂直パイプを立てる。
・　風呂釜に注水するバルブを取り付ける。
・　脱衣場の簾、風呂の蓋および背もたれ（入浴中、熱い風呂釜に直接背中が触れないようにする）を竹で作成する。
・　五右衛門風呂は、この日の夕方に完成した（写真４－13）。夜の発表会の後、沸かして女性参加者が入浴した。男子は翌早朝に入浴した。

〈学んだ技能、工夫した点など〉

・　当初、煙突の固定金具を風呂の横の立木に打ち付ける予定であったが、「樹木は傷つけない方が良いのではないか。」という意見が出た。そこで直径約12cmの竹を長さ80cmに切断し、中にコンクリートを詰めて固定金具を埋め込み、地面に立てて煙突を支持することにした（写真４－14）。
・　五右衛門風呂完成後、深夜に初めて湯を沸かしたが、この湯は翌朝まで完全にさめることはなかった。風呂釜を支持している耐火煉瓦や耐火モルタルの断熱性能が良く、火室内部の熱を長時間保持できるためであろう。

写真４－10　耐火モルタルの焼成

写真４－11　コンクリートブロックとガラで階段の原型を作る

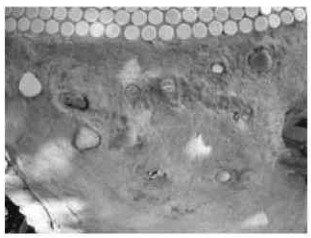

写真４－12　黒モルタル表面に埋め込まれた記念品

写真４－13　完成した五右衛門風呂

写真４－14　竹を利用した煙突支持台

・　竹をビス止めするときは、表面が滑りやすいので錐揉みしてから行うとよい。

〈２〉リビングルーム改装（担当教員：井之上）

この作業では、二間続きになっているリビングルームの垂れ壁（図４－８参照）を撤去してワンルームとし、古材を使用した天井の重ね張り、および壁と建具の塗装を行った。作業においては、リフォームに詳しい島田氏から数々のアドバイスを頂いた。

９月14日（月）　作業１日目　担当班：第２班

・　床の養生をブルーシートと養生テープを用いて行う。
・　次に垂れ壁の解体を行う。解体作業は、まず漆喰および下地の土をセットハンマーで壊す作業から始める（写真４－15）。木摺りが出てきたところで脚立に上り。バールを用いて外す（写真４－16）。外した木摺りは、床に降ろして釘抜きを行う。さらに吊り束および鴨居の壁に接する部分を切断する
・　２つの部屋の天井が若干不陸[注]となっていたため、野縁の部分に飼木を差し込んで高さ調整する。また解体により収まりの悪くなった天井廻り縁や額縁等も補修する。この作業に使用した道具は、玄能、鋸、インパクトドリル、差金、鑿、スライド丸鋸などである。
・　天井に板材を張る前、目地などの隙間を隠すためタッカーを用いてクラフト紙を張る（写真４－17）。
・　板材をビス（木ネジ）止めするとき、受け材である野縁の位置が分かるようクラフト紙に墨壺で墨を打つ。

〈学んだ技能、工夫点など〉

・　参加者は初心者であったため、工事用の道具には馴染みがなかった。そこで井之上から作業開始前に下記の内容を説明した。

注）２つの部屋の天井高が異なっていたため、垂れ壁を取り除いた箇所に段差が生じた。

1）作業上の注意（周辺の状況に気を配りながら作業を行うこと）

2）鋸の縦引き、横引きの使い分けの方法

3）鑿の表、裏の使い分けの方法

4）墨壺、墨刺し、軽子の使い方

5）前もって下地や受け材の位置を確認し、目印を付けておくこと

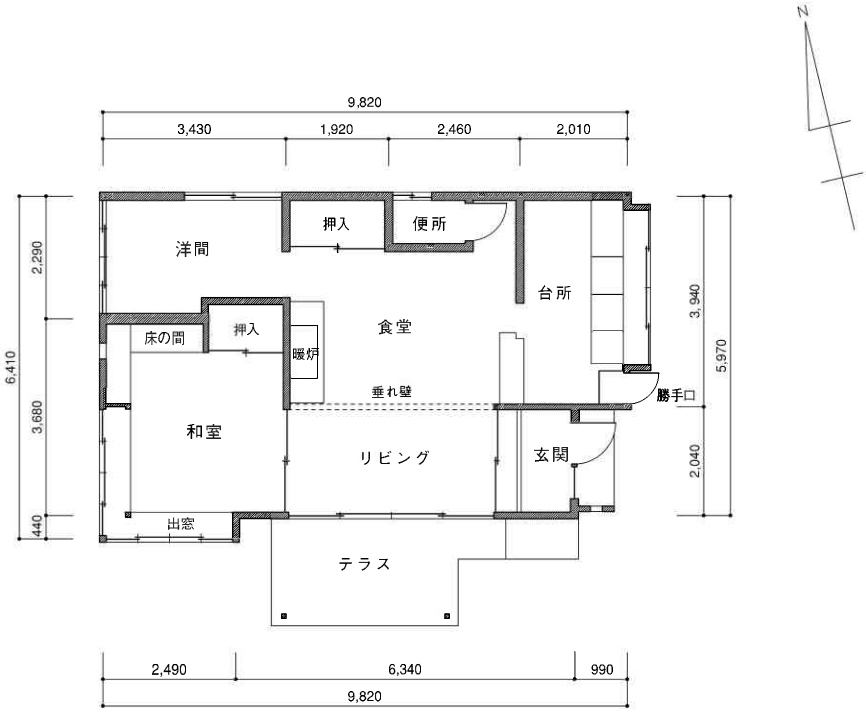

図４－８　森の家平面図

写真４－15　漆喰と下地の剥離作業

写真４－16　木摺りをバールで外す

写真４－17　タッカーを用いて天井にクラフト紙を張る

９月15日（火）　作業２日目　担当班：第１班５名

・　竹で馬を作り（写真４－18)、天井に張る板材にサンダー掛けを行う。

・　安全に効率よく正確な切断ができるスライド丸鋸を用いて板材を切断する。

・　板材の切断作業とともに脚立足場を組み、インパクトドライバーでビス止めしながら天井の板張りを行う。

〈学んだ技能、工夫点など〉

・　木材表面の仕上げ前後の差が、サンダー掛けにより実感できた。
・　職人からインパクトドライバーの使用法のコツを教えてもらった。このコツとは、ドライバーのピットを最初からビスの頭にむやみに押し込むのではなく、ビスが材料中に少し入り込んだタイミングを見計らって力を加えるというものである。

9月16日（水）　作業3日目　担当班：第3班

・　前日に引き続き天井の張り替え作業を行う。2名がサンダーによる板材の仕上げ（写真4－19）、1名がスライド丸鋸による板材の切断、2名が天井の板材張りを行う。これらの作業は、班員がローテーションしながら行う。

〈学んだ技能、工夫点など〉

・　天井の板材として古材を使用した。そのため板の幅が違いによってビス止めの位置が野縁の位置からずれる場合があり、天井裏から受け材を取り付ける必要があった。
・　古材のような規格のない材料を使用する場合、いわゆる「現場合わせ」、すなわち臨機応変の対応が必要である。
・　各作業担当者との連絡を密にすることで、連係プレーをスムーズに行うことができる。
・　スムーズな連係プレーのためには、前もって作業の「段取り」をきちんと考えておくことが重要である。

9月17日（木）　作業4日目　担当班：第2班

・　養生紙と養生テープによりリビングルームの壁の養生を行なった後、ローラーと刷毛を用いて塗装を行う（写真4－20）。

〈学んだ技能、工夫点など〉

・　養生の作業はすでに経験しているので、職人の指導をほとんど受けることなく行うことができた。
・　塗装工事は、養生に費やす時間がかなりかかる。
・　ローラーによる塗装は初めての者でも簡単であったが、刷毛による塗装は、なかなか思うようにできなかった。
・　刷毛を使用して塗装する際は、一度塗った箇所に対し刷毛を返す形でもう一度塗るのが基本的な手法である。
・　下地材料によって使う塗料の量が異なる。

9月18日（金）　作業5日目　担当班：第3班4名

・　居間の押入の引き違い戸と、玄関の壁の塗装を行う。

〈学んだ技能、工夫点など〉

・　仕上げが異なる部分の縁の切り方を学んだ。

・　下地材料により塗料の乗りが悪い箇所がある。そのような箇所は、ある程度時間をおいて再塗装を行う必要がある。

・　塗装手順としては、「左から右へ」、「上から下へ」と塗るのが良い。

〈3〉和室の壁の塗り替えとウッドデッキ製作など　（担当教員：松富）

この作業では、主に和室の古い漆喰壁を塗り替えを行った。この作業では、伝統的な左官の仕事を体験することができた。

9月14日（月）　作業1日目　担当班：第3班

・　島田氏の指導により、和室の壁表面の漆喰を剥がす（写真4－21）。

・　床を古い莫蓙（ござ）で養生する。

・　グラインダー、革漉き（かわすき）にて表面の漆喰をていねいに剥がす。凹みができた場合は、鏝（こて）を用いて塗り土で補修する。細部の補修には面戸鏝を使用する。

・　凹みの補修の後、首長鏝（金鏝）を用いて土壁塗りの作業を行う。

〈学んだ技能、工夫点など〉

・　この日は、「鏝返し」という左官作業における重要な技を学んだ。鏝返しとは、鏝板に載った練土を手首で返しながら鏝に載せる技である。班員たちは、最初、なかなか思うようにできなかったが、鏝板の傾け方などを工夫しながら少しずつ上達していった。

・　練土で汚れた箇所は、早急に水を含んだ刷毛や布でふき取る必要がある。これは左官用語で「散り掃除」という。

9月15日（火）　作業2日目　担当班：第2班

・　舟の中に土、砂、水を入れミキサーで練り混ぜ、塗り壁の材料を作る。

・　昨日同様、養生、散り掃除を行う。

・　首長鏝（金鏝）を用いて土壁塗りの作業を行う。

・　作業後は道具の手入れ、片付けを行う。

〈学んだ技能、工夫点など〉

・　塗り壁の材料を作る場合は、最初に水を入れすぎないよう注意する必要がある。ま

ず予定量より少な目に水を入れ、様子を見ながら水を追加してゆく。

・　職人の段取りや技を覚えようと班員が真剣に取り組むようになった。特に鏝返しの習得には、夢中になっていた。

・　作業終了後の道具の片付けや手入れが、段取りよくできるようになった。

写真４－18　竹の馬

写真４－19　天井材のサンダー掛け

写真４－20　リビングルームの塗装

写真４－21　和室の漆喰の剥離作業

９月16日（水）　作業３日目　担当班：第１班

・　前日に続いて土壁塗りを行う。

〈学んだ技能、工夫点など〉

・　前日の班の様子を観察したり、作業内容を聞いたりしているので作業を比較的スムーズに作業を開始することができた。

・　しかし、鏝返しについては、他人が行っているのを観察しただけでは本人が実際に行わない限りその難しさを体得できない。

・　鏝押さえの際にも「返し」が大切である。

・　散り掃除をゆっくりと行った箇所は、汚れを落とすのに苦労した。散り掃除は、素早く行わないと汚れが取りにくいことがわかった。

９月17日（木）　作業４日目　担当班：第３班

・　和室の土壁塗りの最終仕上げを行う（写真４－22）。特に床の間や違い棚及び柱と壁の散りの部分の養生を養生テープ付きの養生シートで入念に行う。

・　鏝塗りの作業終了後は、養生シートを外し、長押や柱の汚れた部分を水に示した刷毛や布で散り掃除を行う。

〈学んだ技能、工夫点など〉

・　「鏝仕上げの終了」が「仕事の終了」ではない。掃除や道具、材料の片づけ終えるまで仕事は続くものである。

・　鏝の使い方は大変難しく、なかなか思い通りにならないが、職人に指導を受けながら我慢強く続けていると少しずつ上達し、左官仕事に面白さを感じるようになる。

・　左官工事は湿式工法であるため、土壁の乾き具合を確認しながら次の作業の段取りを行うための時間管理が重要である。

9月18日（金）　作業5日目　担当班：第2班

・　前日に続いて壁の塗装を行う。

・　台所のサービスカウンターのモザイクタイル張り、屋外にある流し周辺のブロック積みとタイル張りなどを行う（写真4－23）。

・　壁の塗装終了後は、養生紙を丁寧に外す。

〈学んだ技能、工夫点など〉

・　モルタルは、セメントと砂を体積比1：3で調合する。

・　タイル目地には、セメントペーストを塗り込む。

9月19日（土）　作業6日目　担当班：第1班

・　リビングルーム前のコンクリートベランダ上にウッドデッキを製作する。この作業は、大工である豊田氏（NPO代表理事の夫）の指導のもとで行った。ただし庭からウッドデッキに上がる階段は、豊田氏に製作していただいた（写真4－24）。作業の段取りは、次の通りである。

　1）デッキの材料として足場用の板材を使用し、サンダー掛けによって表面を滑らかに仕上げる。

　2）板の受材としての大引をコンクリート上に固定する。

　3）板材の長さを測り、その位置に差し金で線を引く。

　4）引いた線に沿って丸鋸で切断する。

　5）インパクトドライバーで板材を大引にビス止めする。

〈学んだ技能、工夫点など〉

・　丸鋸の危険性を班員が理解した。

・　差し金の使い方を学んだ。

・　大工仕事の段取りについて学んだ。

写真４－22　和室の土壁塗り

写真４－23　外部流しのブロック積み

写真４－24　豊田氏によるウッドデッキの階段製作

４－２－２　実習以外のイベント

①まち歩き

初日の９月13日には、オリエンテーションの後、豊田氏の案内により尾道市の空き屋見学を行った。16日午後には、渡邊氏の案内により、尾道市内にある浄土寺、西郷寺、西國寺の見学を行った。また18日午後には、参加者が自由に市内を歩き回って写真撮影やスケッチを行い、19日夜には「尾道で発見したもの」としてプレゼンテーションを行った。写真４－25～写真４－27は、本学から参加した３名のプレゼンテーションの様子および発表作品である。

写真４－25　近藤のプレゼンテーション

写真４－26　長田は志賀直哉別邸を見学

写真４－27　高橋は斜面地をスケッチ

②夜のレクチャー

前章３－１【４】で記したように、川窪、井之上、松富、渡邊氏が講義を行い、参加者との間で活発な質疑応答が行われた（写真４－28）。なおこれらの講義には、夏合宿参加者の他、14日３名、15日３名、16日４名、17日12名の一般からの聴講者があった。また13日夜には、小野氏からAIRに関する報告が行われた。

写真４－28　井之上准教授による夜のレクチャー風景

③地元の人々との交流

初日の夜には、島田氏が経営するペンションの庭に地元の人を招いてウェルカムパーティ、２日目の夜には、小野氏の報告の後にAIR参加アーティストとの交流会が行われた（写真４－29）。また夕食は、工事現場の森の家の居間で参加者全員が揃って食べたが、そこにも毎夜近所の人が招かれ、食事をしながらの交流を深めた。なお朝食と夕食の準備はスタッフが担当した。さらに最終日の20日昼には、森の家の庭において流し素麺大会が催された。このイベントには、森の家に隣接する竹林から直径12cmほどの竹を切り出し、素麺を流す樋として使用した（写真４－30）。

④鞆の浦への小旅行

20日午後は、オプショナルツアーとして鞆の浦への小旅行が計画された。鞆の浦はこの時期、架橋問題の裁判が全国的な話題となっていた場所であるが、参加者のうちこのオプショナルツアーに参加したのは本学の学生２名のみであった（写真４－31）。合宿が７泊８日と長期間に渡ったため、参加者の多くは早い帰宅を望んだためであろう。

写真４－29　AIR参加メンバーとの交流風景

写真４－30　近所の住民を招待した最終日の素麺流し

写真４－31　鞆の浦へのオプションツアー

４－３　合宿参加者へのアンケート

最終日にNPOから参加者に対して夏合宿に関するアンケート調査が行われた。最終日参加者12名のうち、８名が回答した。このアンケートに書かれた意見、感想を原文のまま下記にまとめる。

①一番楽しかったこと

・　尾道でみんなと作業を共にした事
・　最後の宴会
・　壁塗り　山本さんとの会話
・　流しレンガ貼りを完成させたこと　水道管へのタイル貼り
・　全日程楽しかったです
・　左官！！　さがり壁をこわしたこと
・　土壁塗りが楽しかったです
・　皆と一緒に作業が出来たこと

②改善すべき点

・　進行を計画的にするべき
・　食事設備
・　スケジュールの時間配分で、もう少しゆっくり出来たら良かったと思いました。
・　廃材キャンプファイヤーなんていいなと思いました。
・　料金の高さが気になりましたが、コンテンツがかなり充実していたので満足しました。（学生料金などを取り入れてみては？）
・　スケッチの時間が短く、もう少し時間をとっていただけたらと思います。
・　プログラムの時間配分がもっとゆとりのあるように！

③感想、自由意見等

・　一週間も家を空ける事が無くて、最初はどうなるかと思っていたが、一日、二日と日々を重ねるごとに、作業にも慣れて、充実した楽しい尾道合宿だったと思いました。まだまだ尾道には知らない事や、学ぶ事等がたくさんあるので期待してまた来たいです。
・　一週間という期間でどうなるかと思っていましたが、無事に皆が終了できた事を嬉しく思います。たくさんの出会いがあり、とても良い経験をする事が出来ました。今後も、頑張っていきたいと思います。
・　合宿に参加する前はとても不安で、７泊８日体調など崩したりしないだろうかなど色々思っていました。しかし、とても体調の事を気遣って下さったりと元気に終える事が出来ました。作業ではプロと素人の差というのが改めて思い知らされました。無駄な動きはせず、的確に作業をしている姿はとてもカッコ良かったです。社会に出て、何の仕事につくにしろ、これからも色々と挑戦出来たらと思います。
　合宿中に出会えた参加者とも仲良く、一緒に作業をする事が出来たのは、本当に楽しかったです。たくさん話をしながら笑ったり、あっという間の７泊８日でした。この経験はこれから先、忘れる事はないぐらい本当に貴重な経験が出来ました。一

週間本当にありがとうございました。

・ 五右衛門風呂作り、土壁塗りなどの作業はプロの左官さん達に指導していただき、何回か同じ作業をくり返すことで、少しずつ上達することができた。最初は専門用語など、わからないことだらけだったが、わかりやすく説明していただいて、少しずつ理解する事ができた。

作業以外にも、寝食を共にしたり、銭湯巡り等を通して尾道を生活者の視点でとらえたり、メンバーの方々と交流できて良かった。一週間という短い間でしたが、密度の濃い合宿でした。いつかこの経験が生かせたらいいなと思います。

・ ものづくりは、本当に手間がかかり、自分が等身大の世界に来たように思いました。日頃は、お金で物を買うだけで感覚がまひしているようで、今回の体験は自分のこれからの可能性を広げてくれたように思いました。また、世の中、いろんな人がいて、それぞれの世界があり興味深いものがありました。

・ 建築の学生がほとんどでしたが、他のジャンルの社会人の方も参加されていて良かったと思います。夕食時に、住民の方々の話をもっと聞けたら良かったと思ったので、一日くらいお酒を飲みながら、ゆっくりと話がしたかったです。豊田さん、スタッフのみなさん、本当にありがとうございました。尾道、大好きです。ありがとう。

・ 山の手を歩いていたら、急に運動がしたくなりました。最近まったく運動をしていませんでしたが、坂を歩いているうちに体を動かす楽しさを思い出しました。坂に住んでいるおじいちゃん、おばあちゃん達も元気に階段をのぼっていて、ここに住むと健康になれると思いました。

今回、楽しかったのは土壁塗りと日本建築レクチャーまちあるきです。土壁塗りは単純に、作業の難しさを実感しました。プロはサラサラっときれいに整形していくんですが、これが簡単なようでとても難しい！もう一つ、おもしろく感じたのは、日本建築レクチャーです。今まで建築学科ではなかったので、日本建築につて学ぶ事は少なかったのですが、少し知識が深まり、とてもおもしろく感じられました。これを機会に日本建築の勉強をしてみようと今は思っています。

・ 尾道最高！７泊８日の合宿お疲れ様でした。ワクワクドキドキの中に不安もありながら始まった夏合宿でしたが、すぐに友達もでき、毎日、毎日楽しいhappyな日々でした。リビングの垂れ壁を崩したこと、天井に板を貼ったこと、土壁を塗ったこと、そしてメインの五右衛門風呂を作ったこと、全てが最高の思い出となりました。職人さんの仕事は美しく、スピーディーで実際に自分で作業する事により、その難しさ、大変さを知り、改めて、職人さんのすごさを実感しました。

自分達で、一生懸命取り組んで、完成した五右衛門風呂に入った時は本当に幸せを

感じました。また達成感も大きく、これからも時間が合えば尾道で空き家再生プロジェクトに携わりたいです。

スタッフの皆さん、先生方、食事を作って下さった方、ご指導いただいた方、本当に、ありがとうございました。

④みんなへのメッセージ

・ これも何かの縁なので、長いおつきあいよろしく！！
・ スタッフ、参加者の皆さん、お世話になりました。また、集まれたら嬉しいです。ありがとうございました。
・ 尾道に行く時があれば、是非誘って下さい。
・ これからも何らかの形でつながっていけたらいいなと思います。
・ また、みなさんと再会できたらすごく楽しそうだと思います。
・ また来年、尾道で会いましょう。最高でした。
・ 一週間、本当におつかれ様でした。また同窓会でお会いしましょう。
・ 同窓会しましょう！！また、皆で汗を流し作業したこの森の家で会える事を期待しています！空き家P2009夏合宿に乾杯〜！！お疲れ様でした。

4－4　アンケートの分析

アンケート結果を分析すると、①一番楽しかったことについては「協働できたこと」、「左官作業」を数名があげている。難易度が高い左官作業が面白かったことについては、③感想、自由意見等の記述にも見られ、「技能の向上が自分自身で体得できた」という参加者の満足感や、左官職人の技能に対して抱いた敬意が伺える。④みんなへのメッセージからは、「７日間に渡って同じ釜の飯を食べ、創意工夫を凝らして作業を完成させた」という成功体験を共有することで、強い同朋意識が生まれたことが伺える。

一方、②改善すべき点には、スケジュールがタイトであった点をあげている者が多い。確かに朝７時の朝食から始まり、作業や町歩きの後、夜10時過ぎまで講義とハードスケジュールであった点は否定できないが、このハードスケジュールを成し遂げたからこそ成功体験を得ることができ、強い同朋意識が生まれたと思う。したがってアンケート結果からも、本年行われた「尾道空き屋再生！夏合宿」は、十分にその目的を達成できたと考えられる。

4－5　広報について

今回の夏合宿には、NHK広島放送局、広島放送、広島ホームテレビが取材に訪れ、広島県内のニュースとして各局で放映された。また地元のタウン誌「尾道ライフマガジン　尾街（おのまち）」11月号にも紹介された（図４－９）。

図４－９　地元のタウン誌に掲載された記事

５．まとめと今後の予定

2009年７月28日の朝日新聞の「ニッポン人脈記　ふるさと元気通信」というコラムに「まちおこしは人に尽きる。渦をつくるのは、ヨソ者、バカ者、若者。」という一文があった。本年行っている尾道市における空き家再生活動への参加は、まさに教員（ヨソ者、バカ者）が学生（ヨソ者、若者）として、尾道の空き家再生活動に渦を作り出すものである。このような社会体験教育実施におけるポイントとして、次の３点をあげたい。

①機会の創設・・・他の団体や地域住民と協働するという教育方法は、大学のカリキュラムに割り当てられた授業とは異質のものである。したがってこのような社会体験教育を計画する場合、教員が調査・研究などで培った人的ネットワークを活用して機会を創設することが重要である。また相手方がこちらに何を期待しているのか、こちらが相手方にどのような貢献ができるのかを明確にしておく必要がある。
②大学の実地教育に対する理解・・・このプログラムは、本学の特別研究制度により資金的な支援を受け、実施することが可能となった。また参加学生には、研究・制作300として２単位が与えられることも、学生にとって積極的な取り組みの一因となっていると考える。
③社会体験教育の持続性・・・筆者は、「持続性可能な社会」を学ぶ社会体験教育自体に永続性が求められると考えている。特に本プログラムのように遠隔地における社会体験教育ついては、協働先との関係や実施のペースを守りつつ、大学の理解と資金的な支

援を受け続けること、さらに可能であれば外部からの補助金を得ることが重要である。

2009年度９月以降の活動であるが、本学のメンバーと尾道空き家再生プロジェクトのメンバーにより、森の家の更なる整備を進めていく予定である。特に夏合宿で改装工事を行うことができなかった北西の洋間はシロアリの被害が大きく、この部屋の床の張り替え作業（実測、状況調査、修理方法検討、設計、工事）を本学の参加学生に行わせる予定である。また３月23日には、尾道市にて「2009年度尾道まちづくり発表会」が開催されるが、本学からも学生１名が１年間の活動に関する発表を行い、それについて教員が講評を行う予定である。

【参考文献】

文１）尾道市住民基本台帳（平成21年10月30日現在）
文２）尾道　―地域コンテンツによる「場所の力」の展開―：真野洋介、「路地からのまちづくり（西村幸夫編著）」、p184－p196、学芸出版社（2006）
文３）斜面都市尾道の研究―　その３　斜面住宅地の空間と生活環境―：西川龍也、倉洋純、増田友也、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、p209－p210（2001）
文４）斜面都市尾道の研究―　その１　近代港湾都市・斜面都市としての尾道：増田友也、西川龍也、倉洋純、日本建築学会大会学術講演梗概集（関東）、p877－p878（2001）